

沼田城について

2017.10.17 宮原諄二

はじめに

・小田原市の久所に住んでいることから、近くの沼田城址に関連する情報を集める担当になりました。調べていくうちに、沼田城が存在していた時代と現在の風景があまりにも大きく変わっていることから、見慣れている今の風景が昔はどうだったのか、さらには、“たたらど”なる地名、つまり砂鉄から鉄を作っていたと思われる場所が近くにあるらしいがあることも知り、興味が湧きだし調べる範囲を広げました。

・従って、報告は下記の内容が含まれます。

1. 沼田城の概要とその変遷の話
2. 足柄平野のヒトと風景の短い歴史の話
3. 南足柄における古代の製鉄遺跡の話

<参考資料>

【沼田城の概要とその変遷の話】

1. 「南足柄市史1 資料編 原始・古代中世」:(南足柄市 平成1.3.31)
2. 「南足柄市史9 別編 年表」:(南足柄市 平成13.1.31)
3. 「南足柄市文化財調査報告書 第七集 沼田城址」:(南足柄市教育委員会 昭和50.3.20)
4. 「南足柄市文化財調査報告書 第七集 付録 沼田城址図集」:(南足柄市教育委員会 昭和50.3.20)
5. 「相模沼田城址の歴史的背景 沼田氏・大森氏を中心として」:(関恒久:『駒澤史学』、22,15-31,1975-3)
(注)本資料は資料3の第9章と同一内容。“岩原が鉄の産地”との引用文献には資料がないか、記述がない。
6. 「相模武士団」:(関 幸彦編、吉川弘文館 2017.9.1.)
7. 「箱根をめぐる古城30選」:(小田原城郭研究会編、神奈川新聞社、昭和62.3.31)
8. 「戦国騒乱と巨大津波」:(金子浩之、雄山閣、平成28.2.25)

【足柄平野のヒトと風景の短い歴史の話】

9. 「日本列島100万年史」:(講談社 2017.1.20)
10. 「+2℃の世界 縄文時代に見る地球温暖化」:(神奈川県立生命の星・地球博物館 2004.12.18)
11. 「開成町史 自然編」:(開成町、平成6.11.30)

【南足柄における古代の製鉄遺跡の話】

12. 「あしがらの道」、本多秀雄:(神奈川新聞社、1993.10.30)
13. 『古代の溶鉱炉たたらど』、小泉貞之:(「史談足柄」、第11集、p.125、昭和48.3.30)
14. 『南足柄市タタラド製鉄遺跡調査報告』、窪田蔵郎:(「史談足柄」、第13集、昭和50.3.30)
15. 『関東における古代の鉄と製鉄』、窪田蔵郎:(「日本古代文化の探求 鉄」、社会思想社、昭和49.10.30)

沼田城の概要とその変遷の話

- ・所有者は沼田氏・大森氏・北条氏・徳川幕府と代わるも、平安時代末期から江戸時代初めまで約500年間も存続していた。
- ・その理由は、敵から防御しやすい自然の地形であり、古来からの主要道を監視しやすいとの地政学的に優位な場所であったためであろう。

「沼田城址」周辺の遺跡

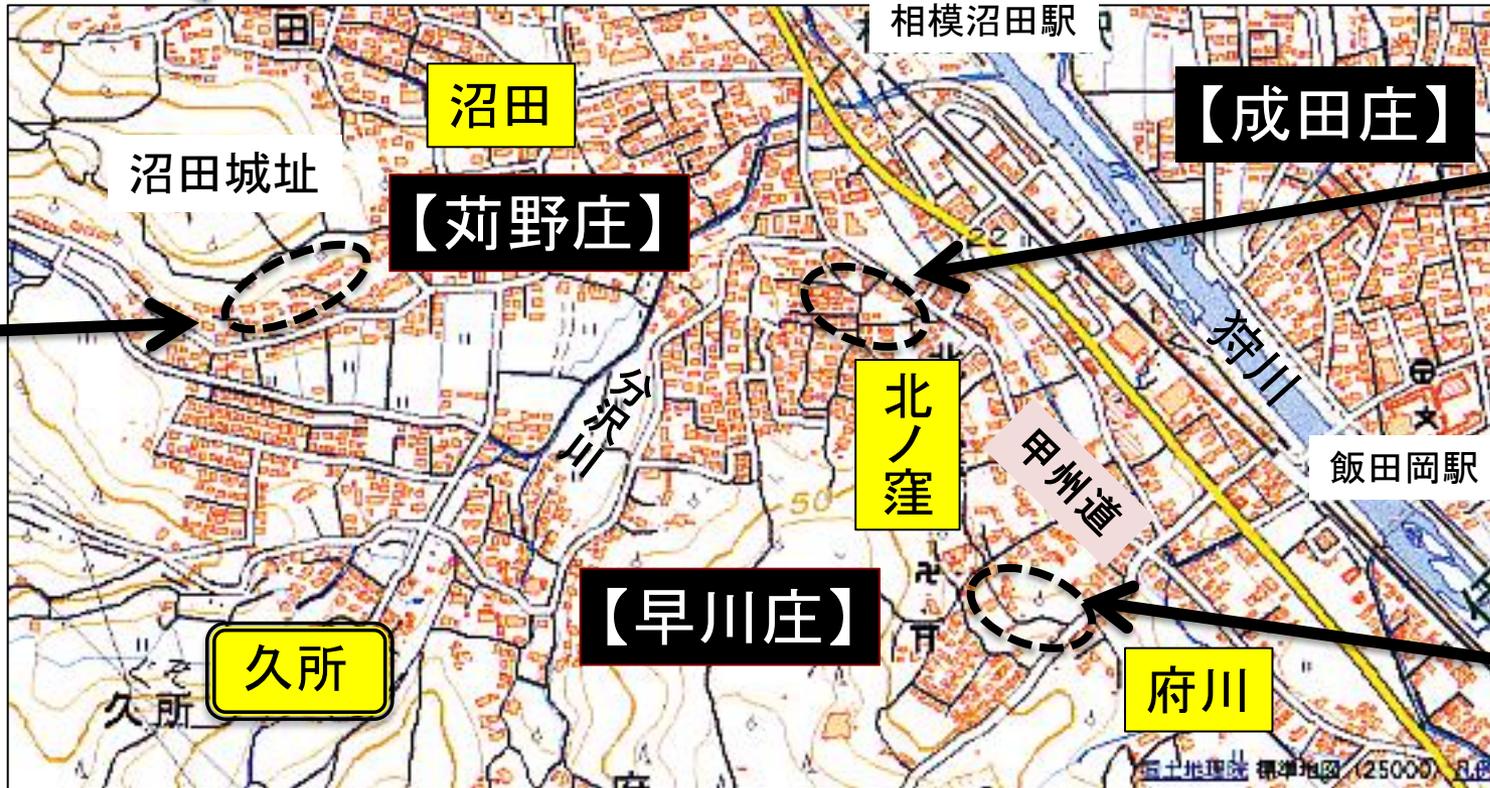
および江戸時代の庄(しょう)

沼田上ノ原遺跡

北ノ窪小原遺跡

沼田城山下横穴墓群

府川諏訪ノ前遺跡



諏訪ノ原丘陵 縄文遺跡・古墳群

小田原地方で最も早くから
大規模に人が住んでいた地域

周囲の地区は古代から人が住み、地名は地形に由来している。久所は違う。

明神岳

御嶽神社



城山(沼田城址)

← 久所(小田原市)

沼田(南足柄市)

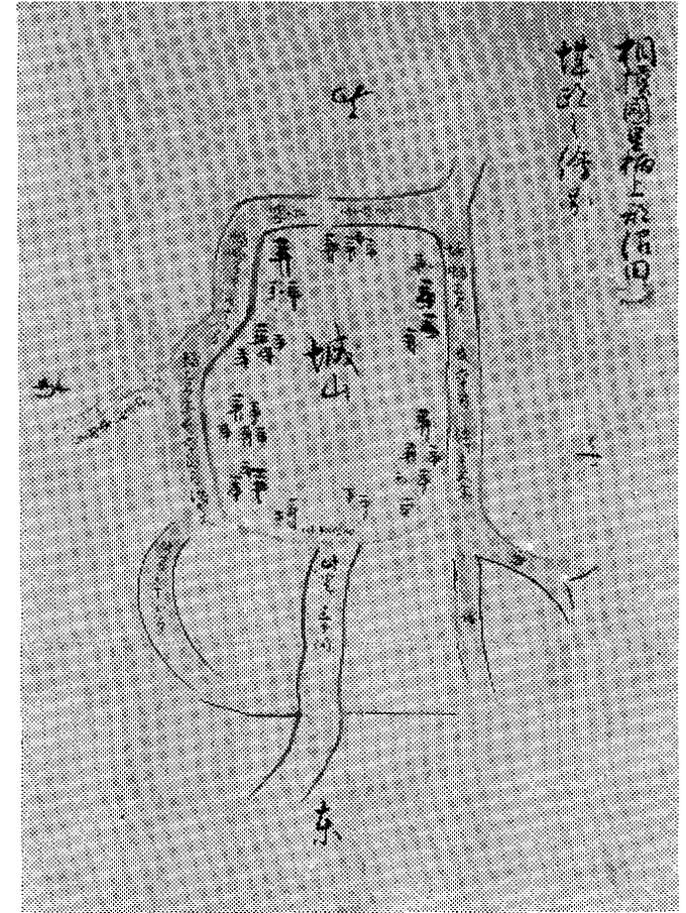
北ノ窪(小田原市)

分沢川

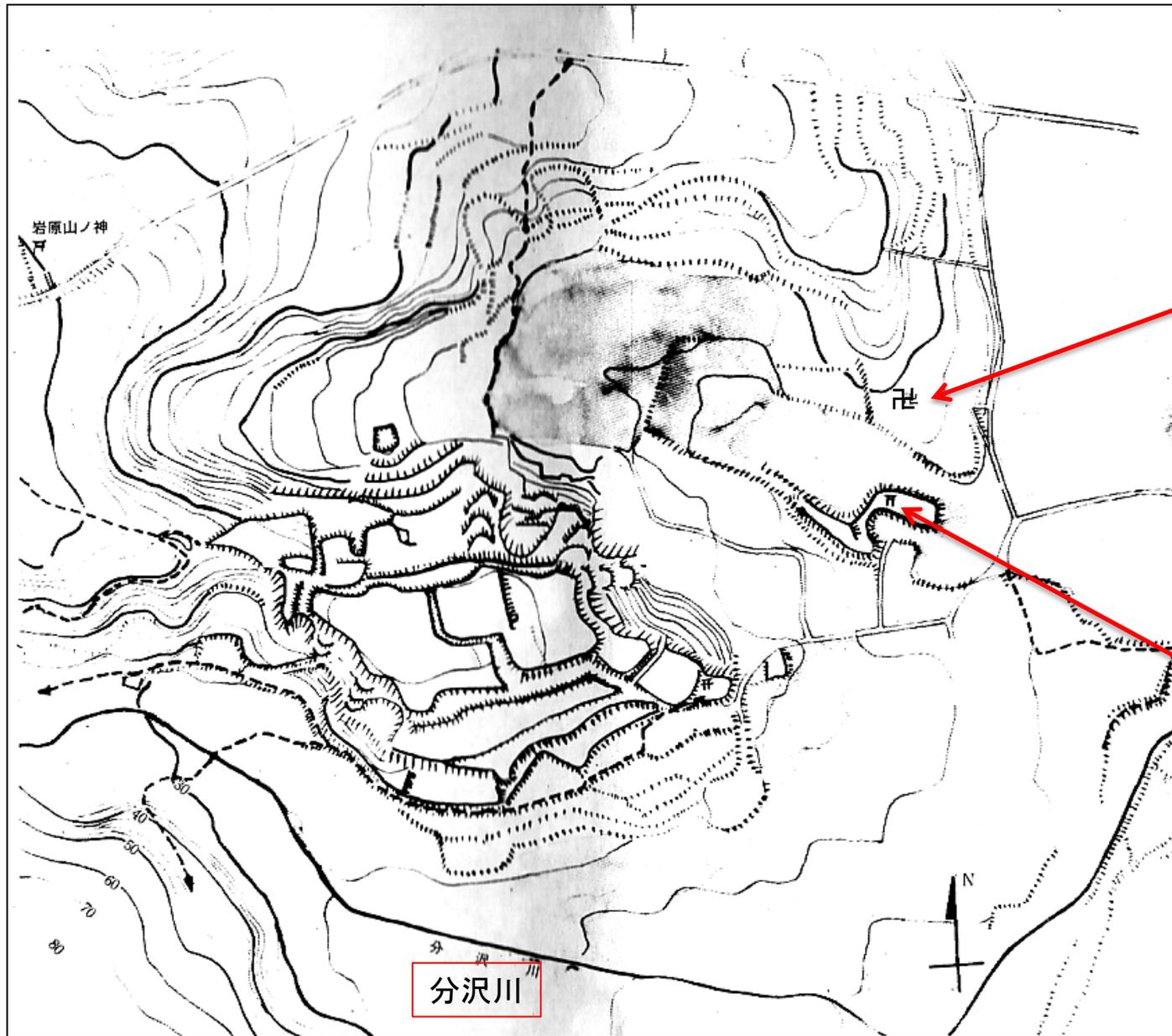
旧北ノ窪村 字久所前から沼田城址を見る

沼田城址の発掘調査の経緯

- 1973.6 「城山」の古地図発見(安藤氏宅)
- 1973.9 沼田城調査委員会(南足柄市)発足
調査担当:小田原城郭研究会
- 1973.9.16 現地調査開始
- 1974.5.19 発掘終了
- 1974.5.27 報告会(沼田公民館)
- 1975.3.20 調査報告書 発行



第7図 『城図』(相模国足柄上郡沼田村城改之絵図), 沼田・安藤進氏所蔵



西念寺

- ・飯田岡に創建(1375)
- ・洪水により流出のため
現在地に移転(1446)

相模沼田駅へ

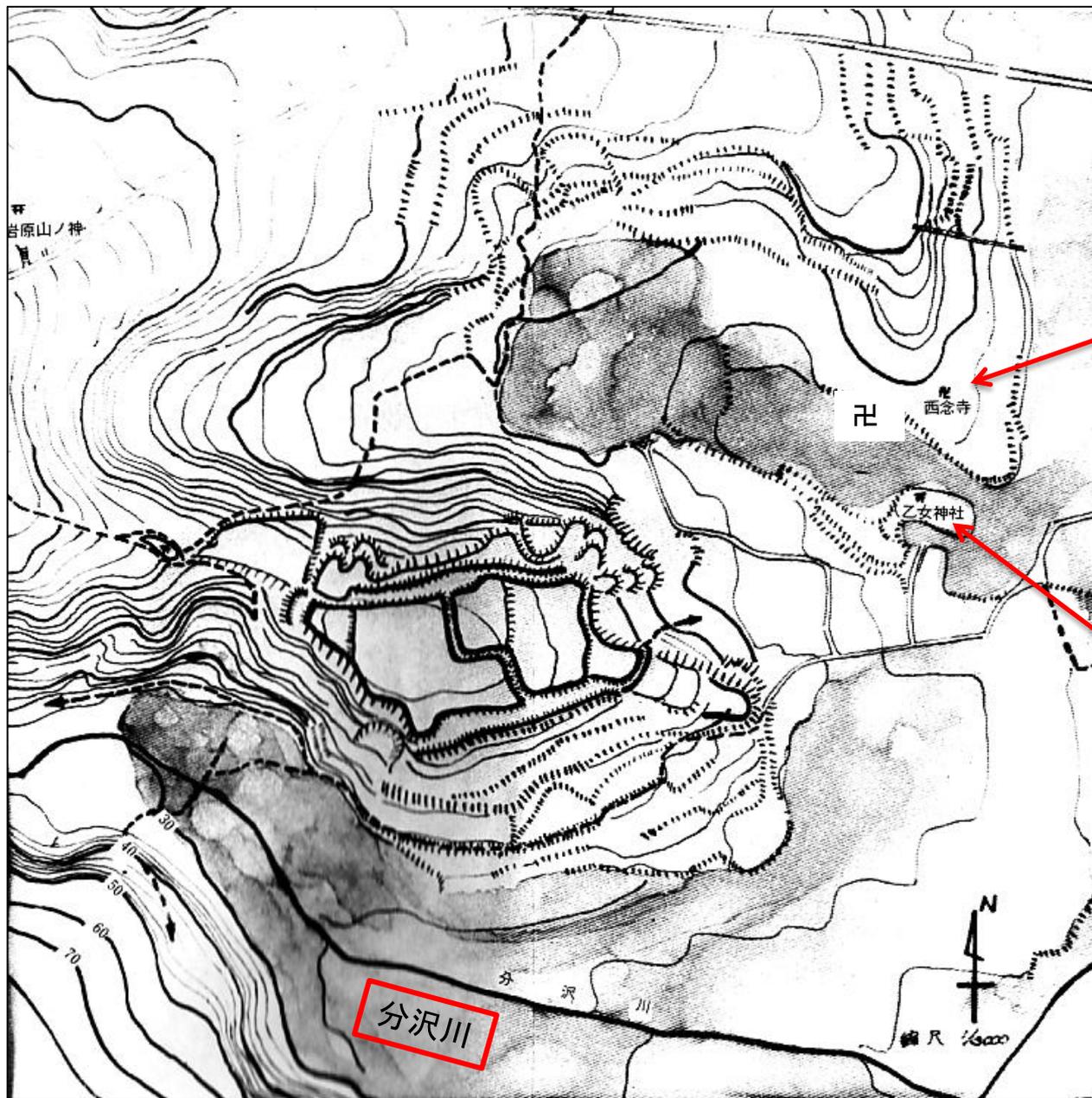
八乙女神社

- ・旧名称:「矢留権現」
- ・明治6年西念寺より
分離し、名称変更

第52図 現況見取り図 S=1/3000



第53図 初期沼田城概念図



西念寺
 ・飯田岡に創建(1375)
 ・洪水により流出のため
 現在地に移転(1446)

相模沼田駅へ

八乙女神社
 ・旧名称:「矢留権現」
 ・明治6年西念寺より
 分離し、名称変更

第54図 中期沼田城概念図

発掘により判明した沼田城の変遷

前期 (約250年間): “城”の重要性・必要性が重きを置かれなかった時代。沼田氏の館。

- ・波多野氏は平安末期(12世紀)に足柄上郡の菖蒲・松田・河村・大友・沼田の地に進出。
- ・その頃の勢力図: 早川から酒匂川にかけての地: 山内首藤氏 / 早川以西: 土肥氏 / 曾我・酒匂・中村の地: 曾我氏・酒匂氏・中村氏など / その間には小武士団が群居
- ・沼田氏の祖(沼田家通/七郎)は波多野氏から分かれ沼田郷を領有、館を造営か(12世紀後半?)。
- ・『吾妻鏡』に初出するのは沼田太郎で、文治元年(1185)10月24日の源頼朝の随兵として登場。

中期 (約80年間): 大森氏が西相模に進出し、勢力を拡大した時代。大森氏の城。

- ・応永21年(1414)に沼田左衛門尉が塚原の天王院を開基。
- ・応永28年(1421)に大森頼春が沼田郷を二岡神社に寄進。
- ・「上杉禅秀の乱」(1416/10-1417/1) / に沼田氏は禅秀側に立ち敗北。領地は鎌倉公方へ、その後大森氏へ。岩原の地は鎌倉公方の直轄地で残る(砂鉄が取れ、鍛冶集団が存在という)。
- ・1417~1421年の間に沼田郷は大森氏の手に入り、“館”は城に改築される。小田原城築城も。

後期 (約150年間): 西相模の勢力が後北条氏、そして江戸幕府に代わった時代。

- ・小田原城主は大森氏 → 後の北条早雲(1495) → 上杉氏(1496) → 北条早雲(~1501)と変遷。
この間、明応4(1494)年と明応7(1498)年に大地震・津波が小田原を襲う。
- ・沼田城主は大森氏から後北条氏となり、小田原城の北の防御として利用。
- ・天正18年(1590)7.5. 北条氏直は豊臣秀吉に降伏。同年8.1.小田原城主は大久保忠世に。
- ・沼田城は存続。江戸期の貞享三年(1686)の御引渡記録に沼田城が明記されている。

発掘により判明した沼田城の変遷

前期 (約250年間): “城”の重要性・必要性が重きを置かれなかった時代。沼田氏の館。

- ・波多野氏は平安末期(12世紀)に沼田・河村・大友・沼田の地に進出。
- ・その頃の勢力図: 早川が沼田の東、以西: 土肥氏 / 曾我・酒匂・中村が群居
- ・沼田氏の祖(沼田氏)はいつか(12世紀後半?)。
- ・『吾妻鏡』に沼田氏兵として登場。

約500年間も存続。地
政学的に有利な場所
にあったのだろう

中期 (約150年間): 沼田城の城。

- ・応永21年(1414)に沼田城を築城。
- ・応永28年(1421)に沼田城を築城。
- ・「上杉禅秀」の伝説が沼田城へ、その後沼田城を築城したという。
- ・1417~1421年沼田城築城も。

後期 (約150年間): 西相模から江戸幕府に代わった時代。

- ・小田原城主は大森氏→後の北条早雲(1495)→上杉氏(1496)→北条早雲(~1501)と変遷。
この間、明応4(1494)年と明応7(1498)年に大地震・津波が小田原を襲う。
- ・沼田城主は大森氏から後北条氏となり、小田原城の北の防御として利用。
- ・天正18年(1590)7.5. 北条氏直は豊臣秀吉に降伏。同年8.1.小田原城主は大久保忠世に。
- ・沼田城は存続。江戸期の貞享三年(1686)の御引渡記録に沼田城が明記されている。

後北条氏の時代

明神ヶ岳 1.169



第55図 後期沼田城概念図
数字は標高

足柄平野のヒトと地形の短い歴史の話

【足柄平野は日本では極めて特異的な扇状地形の平野らしい】

- ・日本列島の中でも3つのプレートの集まった特殊な地域。今でも、東側(曾我丘陵側平野部)は隆起し、西側(酒匂川側)は沈降している。
- ・地球の寒冷化や温暖化による足柄平野への海の退出や海進に加え、箱根山からの大規模な火砕流・富士山の崩壊による御殿場泥流・宝永の富士山噴火による火山灰堆積・酒匂川の度重なる氾濫などで足柄平野の風景は頻繁に変わってきた。

今の風景とわずか100年前の風景はまるっきり違う。気候も時代で異なっている。その時代に生きたつもりで、ヒトと風景の歴史を理解する必要がある。

足柄平野におけるヒトと地形の短い歴史

- ・6万年前：箱根火山噴火。火砕流が箱根東山麓の丘陵を作る
(まだホモ・サピエンスは日本に到達していない)
- ・3万5千年前(地球寒冷化)：石器時代人が小田原・箱根を歩いていた
(2万年前：現在の水深120mくらいまで陸地。足柄平野は谷間の地形？)
- ・1万5千年前：諏訪ノ原丘陵で縄文人が定住し始め、縄文晩期まで続く。
(弥生時代は方形周溝墓群。6-7世紀は多数の円墓。どこに定住？)
- ・6000年前(地球温暖化)：“縄文海進”で足柄平野内部まで海が進出。
(久野川の舟原、沼田・久所あたりまで海だった？)
- ・2900年前(BC900)：富士山の崩壊。“御殿場泥流”が足柄平野まで流込む
(その後海近くまで扇状地形成。足柄平野の縄文時代の遺跡消滅)
- ・2200年前(BC200)：中里遺跡：足柄平野で農耕が始まり、ヒトが定住。
(東日本最大・最古級の弥生時代中期の遺跡)
- ・310年前(1707)：富士山“宝永噴火”。足柄平野一帯が火山灰で埋まる。
(以降、江戸末期まで酒匂川氾濫が頻発。流れも変わり、地形も変わる)

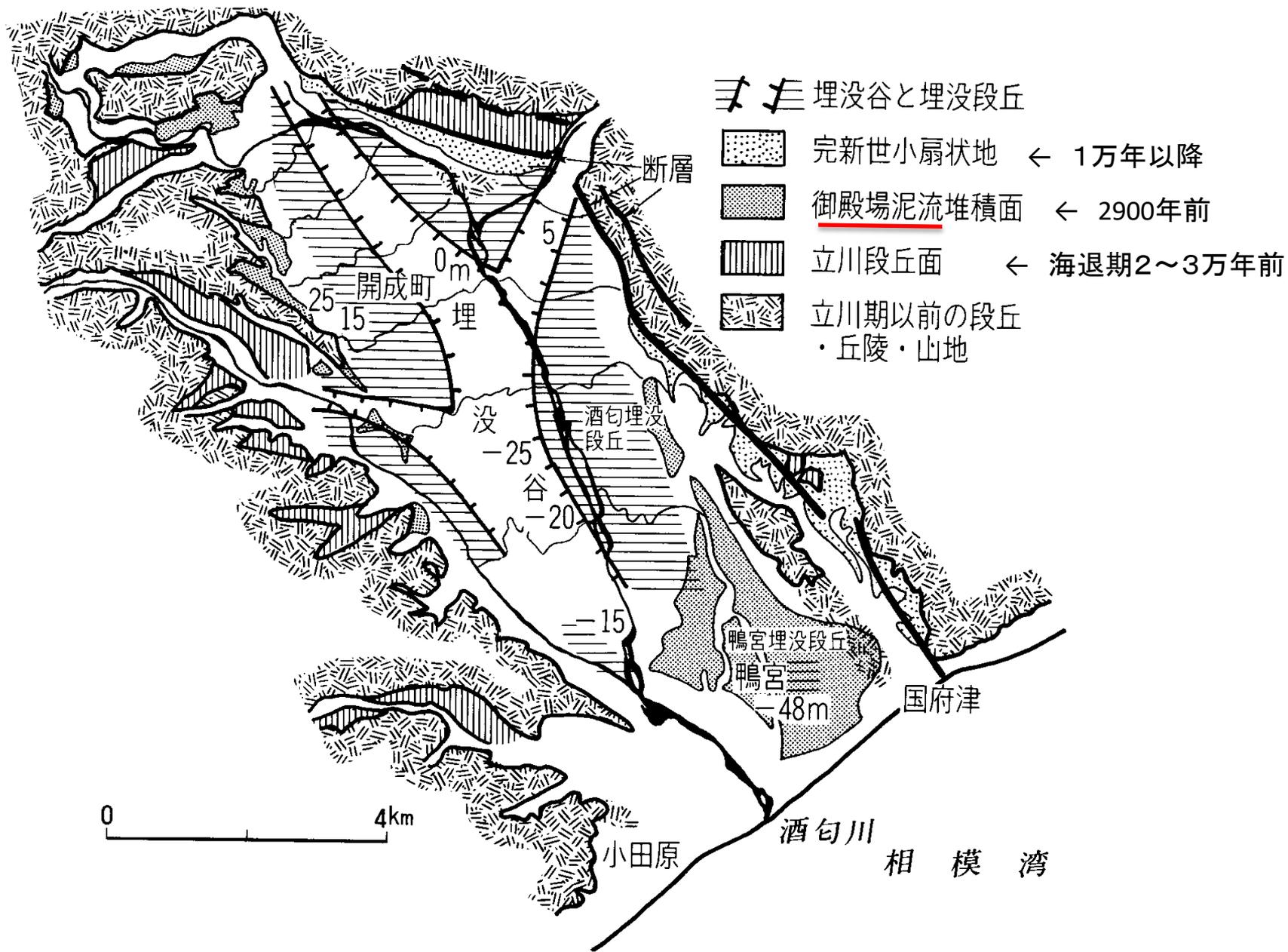
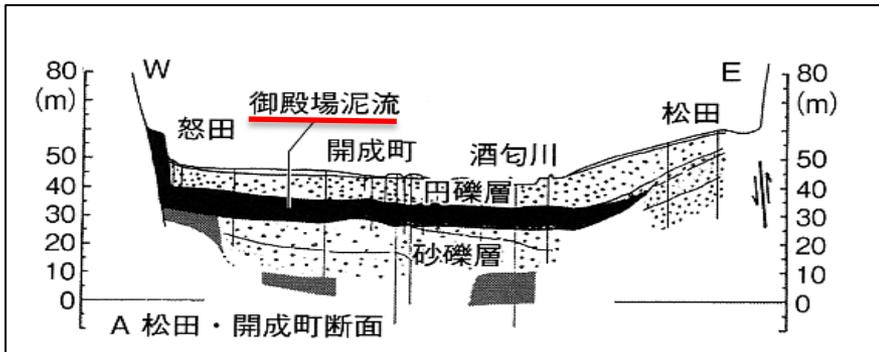
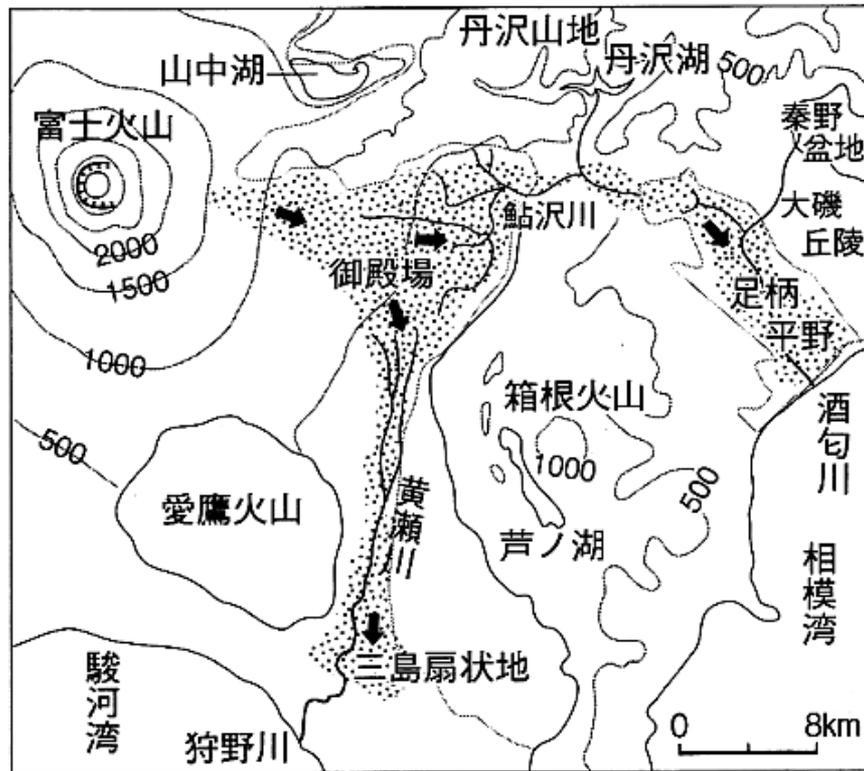


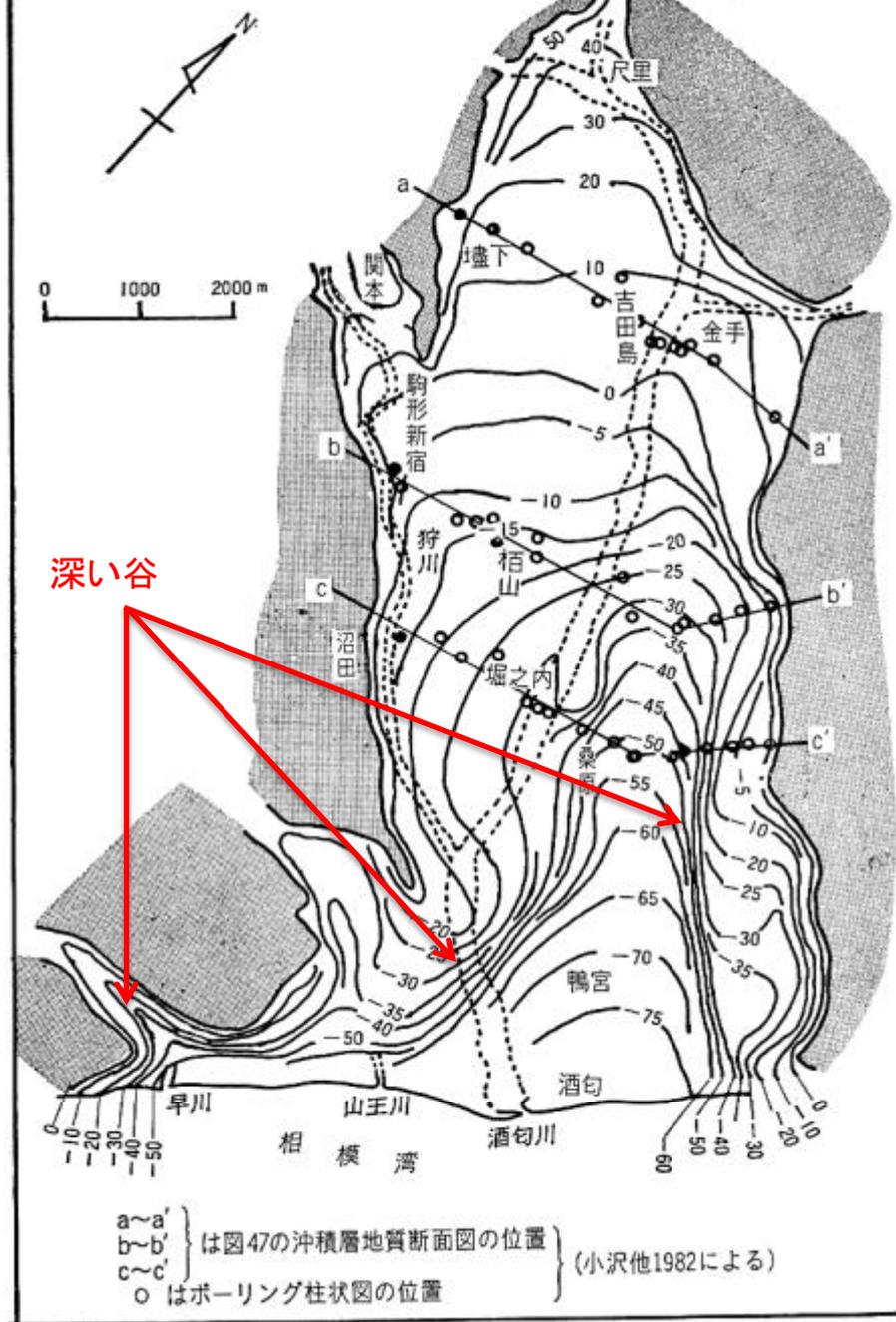
図-25 足柄平野の埋没段丘と埋没谷

「開成町史 自然編」(開成町、平成6.11.30)

2900年前の“御殿場泥流”は 足柄平野を埋め尽くした

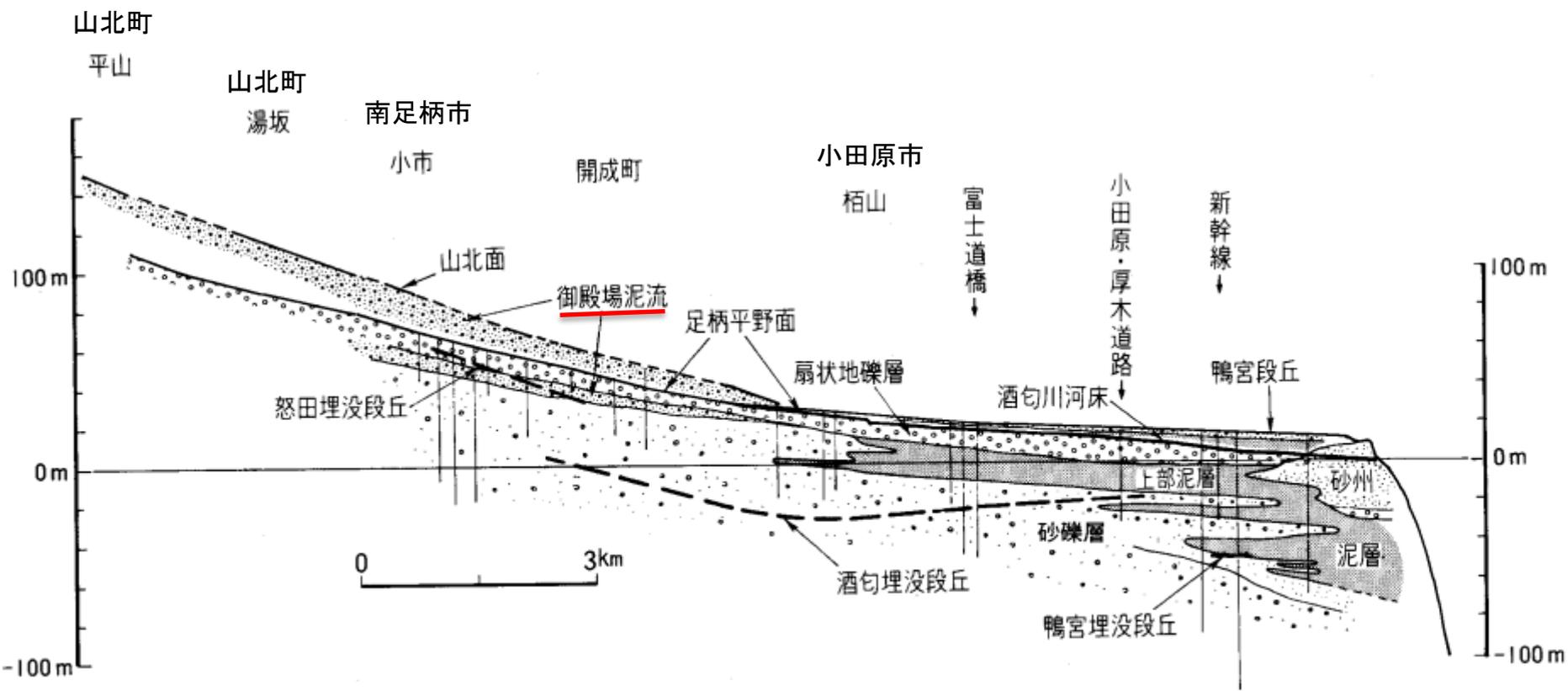


足柄平野の沖積層等深線図

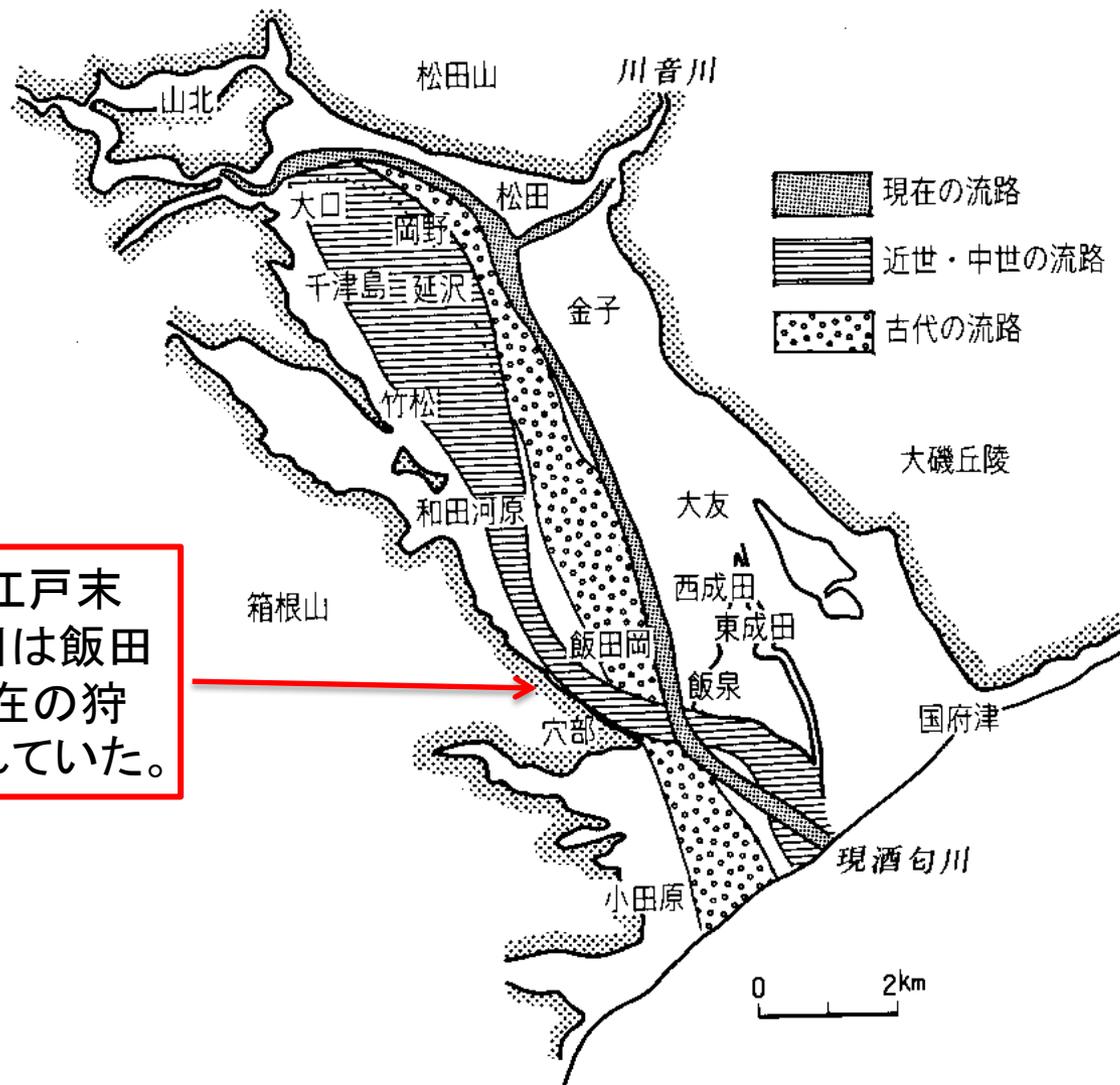


↑ 「日本列島100万年史」(講談社 2017.1.20)

「南足柄市史1 資料編 原始・古代中世」→



図一22 平野の縦断面図



宝永噴火から江戸末期まで、酒匂川は飯田岡付近では現在の狩川あたりを流れていた。

図一32 酒匂川の歴史時代における流路の変遷
(酒井, 1975)

沼田・岩原・塚原付近の地層

- ・表層の下に御殿場泥流の火山砂礫層を挟む総厚さ8m前後の砂礫層があり、その下位に約1mの砂または泥層が重なり、以下は厚い砂礫層。礫は狩川系の他に酒匂川系も混入(資料4)。山間部の谷間は御殿場泥流の火山灰があり、沼田ではこの火山灰の下に数枚の腐植土を挟む厚さ17mの泥層が重なる。
- ・御殿場泥流は山北盆地を35m埋めた。二次的堆積物として、沼田:2m・駒形新宿:10m・上怒田:25mの層がある(資料3)。

久所の長老から聞いた話

- ・沼田は胸まで沈むような沼のような田んぼだった。
- ・酒匂川は北ノ窪の東側(河岸段丘)に沿って流れていた。
(狩川との合流点は現在よりもずっと上流の塚原付近か)

南足柄における古代の製鉄遺跡の話

【“たたら”や“砂鉄”などのさまざまな雑情報】

- ・岩原地区に、“たたらど山・黄金沢・火打沢”などの古地名が残っている。
- ・久所の長老から、「小さい頃、岩原で砂鉄を採って遊んだ」と聞いた。
- ・私の経験では、酒匂川河口の砂浜では日本の他の地域とくらべても平均以上にたくさんの砂鉄が磁石にくっついてくる。
- ・山北の皆瀬川右岸の山間には、“鍛冶屋敷”や“鉄”に関連する地名や神社が残っている。

「南足柄市タタラド製鉄遺跡 調査報告」によれば、鎌倉時代初めまで実際に岩原の山の中で製鉄の操業が行われていたらしい。

『南足柄市タタラド製鉄遺跡 調査報告』

窪田蔵郎:「史談足柄 第13集」(昭和50.3.30)

【経緯】:昭和25,6年頃 林道補修作業中に鉄滓を発見
昭和48年11月 足柄史談会会員で下見
昭和49年 3月 調査、一部発掘(埋め戻し)

【場所】:長泉院の脇を流れる大刀洗川の上流と最乗寺の南東方向との交差するあたり。明神岳を越える古来(奈良時代)からの街道沿い。

【出土物】:鉄滓(原料:砂鉄)・炉壁片・木炭片など
(鉄滓分析結果から技術水準がまだ低い時代)

【時期】:C14による年代決定:1300年前(昭和49.7.4.新聞報道)
平安時代から鎌倉初期の頃の鉄滓か。